



青森

# 夢のある農業を担う 若手生産者の会 「青森脳稼塾」

青森脳稼塾

青森脳稼塾(青森県弘前市大字清水森、三上厚蔵代表、0172・87・0092)は平成28年3月に発足、現在6名で活動している。「頭脳を使い、経営者としての自覚を持って利益を稼ぎ出す農家をめざす」というのが命名の由来である。

「夢のある農業」「熱く燃える農業経営をめざす」をスローガンに、各会員がアンテナを張って得た情報を、全員で共有することによる相乗

効果は大きい。ここ数年市場の好況に沸くりんご業界だが、農家の高齢化と後継者不足という大きな課題を抱える。県内のりんご栽培農家は30年前に比べて1万5千戸減少しているという統計もあり、その現状に対し「もつと若い人たちを育てたい、それが自分の仕事だ」と熱く語る三上代表。

会の活動は月一回、会長宅に集合して各会員の商品の強み・弱みを確認し合うこと。ときには専門家を呼んで商品のブラッシュアップも行う。各会員の商品に対するこだわりは強く、いかに消費者に気持ちよく届けるかを常に



ひと味違ったりんご加工商品の数々

将来の方向性としては、「生産物の8割以上を自分で値決めして販売できる体制を作りたい。経営体制から変えな」と、若い人たちのやる気も向上しないし、りんご産業全体が衰退に向かうばかりだ」と語る。世界一を誇るブランドのこだわりりんご・りんご加工品をご用命の際は、ぜひお気軽にお問い合わせください。



▲100年の結晶が実を結んだりんごの花



凜と立ち大地に根を張る百年木と塾生たち

模索している。一例を挙げると、樹齢100年を超える樹に実つたりんごで作った物語性豊かなグレードの高い加工

工品、一個ずつ糖度表示して届ける安心ブランドのりんご、感謝とこだわりの完熟ジュース、りんごを丸ごとスライスしたチップス、りんごに絵付けを施すオリジナルの技術など、他社とはひと味違う商品が次々誕生している。その他、研修会、商談会と積極的に参加し多方面から注目を集めている。